

中学校においては、精神薄弱対象の学級数がこの10年間に漸増の傾向を示し、昭和51年度には、273学級となっている。

また、病弱・虚弱対象の学級数は、昭和44年度以降徐々に増加し、昭和51年度に7学級となっており、難聴対象の学級数は、昭和48年度から昭和51年度まで1学級という状況にある（図2-5-6）。

従って、今後は、就学指導の適正を期し、特殊学級の障害の種別に応じた適正配置を検討する必要があるだろう。

(5) 盲、聾、養護学校の学級配置

盲、聾、養護学校の学級配置状況を昭和41年度から昭和51年度までの障害種別学級数推移からみると、視覚障害及び聴覚障害対象の学級数は、昭和46年度までほぼ横ばいの状況にあったが、その後、減少傾向を示すに至り、昭和51年度にそれぞれ24学級、42学級となっている。

一方、精神薄弱対象の学級数は、昭和48年度まで急速に増加してきたが、それ以後、横ばいの状況を示し、昭和51年度51学級となっている。

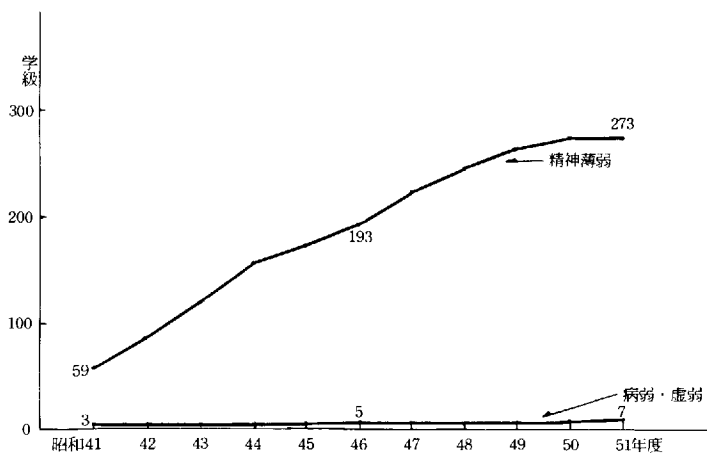
また、肢体不自由及び病弱・虚弱対象の学級数は、緩慢な増加傾向を示し、昭和51年度において、それぞれ42学級、21学級となっている（図2-5-7）。

盲、聾、養護学校の部別学級数推移を昭和41年度から昭和51年度までにおいてみると、幼稚部の学級数は、徐々に増加し続け、昭和51年度において7学級となっている。

小学部の学級数は、昭和48年度まで急速な増加傾向にあったが、それ以後、緩慢な増加傾向に転じ、昭和51年度において100学級となっている。

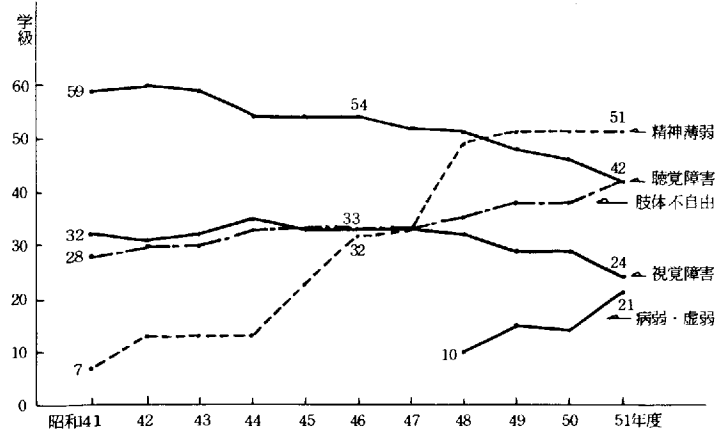
中学部の学級数は、ほぼ一定推移の状況を示し、昭和51年度に45学級となり、また、高等部の

図2-5-6 中学校の特殊学級数推移



- 注：1. 「学校統計要覧」(昭41～昭51)による。
2. 学級数には、国立を含む。
3. 難聴学級は、昭和48年度以降1学級となっている。

図2-5-7 盲、聾、養護学校の障害種別学級数推移



注：「学校統計要覧」(昭41～昭51)による。